

(2) 大内峠見晴宜敷場所おおうちとうげみはらしよろしきばしよ

この場所は、下野街道の中で若松城天守閣も含め、会津城下がはつきりと眺望できる唯一の場所です。この街道を通行した会津藩主をはじめとして多くの旅人が、それぞれの思いを胸に振り返った場所であつたかもしれません。

戦国期には血なまぐさい甲冑武者が駆け抜け、末期には伊達政宗や天下人の豊臣秀吉といった後世に名を残した人も歩いていきます。

江戸期に入ると、会津藩主の初代正之、二代正経、越後新発田藩主や村上藩主もこの街道を江戸参勤の主街道としました。やがて参勤路は白河街道となりますが、時には参勤交代をしのぐ千人を超える国目付一行もこの峠を越えています。幕末には若き吉田松陰が帰路として、戊辰戦争の際には芸州藩士を主隊とする西軍二千人が若松城へと向かったのもこの街道でした。

そして何よりもこの場所は、これら歴史上に名を残した人々だけでなく、毎日のようにこの峠を登り下りした馬子たちにとって、感慨深く城下を眺めた場所であるに違いない。

